

平成25年度

# 子供見守り活動 事例集

子供たちを  
守る!

地域の  
見守り力を!



東京都

# 子供見守り活動

～あなたも始めてみませんか～

「子供見守り活動」とは、次代を担う子供たちの安全・安心を確保したり、子供の健やかな成長を支えたりするために行われるボランティア活動をいいます。名称ややり方は活動によって様々です。

安全・安心まちづくりを推進する  
マスコットキャラクター  
「みまもりいぬ」



## パトロールだけが、 「子供見守り活動」 ではない！

子供の安全確保というと、通学路のパトロールや立哨を思い浮かべる方が少なくないと思います。確かにこれらも効果的な取組ですが、日常的な買い物や花の水やり、犬の散歩などを小学生の登下校時間に合わせることも子供の見守りにつながります。

また、お祭りや子供の居場所づくりなどの取組を通じて、子供と大人が顔見知りになることも、子供を見守る上で大きな効果をあげることが期待できます。



本事例集では、子供見守り活動を始めようとしている方や、既に取り組んでいる方へ、アイデア豊富な活動事例や、活動のヒントを紹介します。



## INDEX



### 子供見守り活動を始めるにあたって

|                              |   |
|------------------------------|---|
| 「ながらパトロール」、「プラス防犯」のすすめ ..... | 4 |
| 大東京防犯ネットワークをご覧ください .....     | 5 |

### 団体の活動紹介

|                    |    |
|--------------------|----|
| 花いっぱい運動 .....      | 6  |
| 学園東町・子ども見守り隊 ..... | 8  |
| 柏木地区協議会 .....      | 10 |
| NPO 法人 ささえ手 .....  | 12 |
| 下北沢・コーデ騎士団 .....   | 14 |
| 鈴木孝雄さん .....       | 16 |
| 橋本豊明さん .....       | 16 |

### 「特集」子供見守りシンポジウム .....

18

### 「コラム」 「セーフコミュニティ」～豊島区の安全・安心への取組～ ...

20

### 活動のヒント

### 模範例 明大前ピースメーカーズ .....

22

## 「ながらパトロール」、「プラス防犯」のすすめ

### 「ながらパトロール」とは…

「ながらパトロール」とは、買い物や犬の散歩など、移動をともなう日常生活の行動を防犯の意識を持って行うことで、防犯に結びつけるという取組です。小学校の登下校の時間帯などに行うことで、無理なく効果的な子供見守り活動を行うことができます。

### 「プラス防犯」とは…

「プラス防犯」とは、花や庭木の手入れ、道路や公園の清掃などの活動に、防犯の要素を加えることで、地域の防犯力を高めていこうとする取組で、「ながらパトロール」も含まれます。子供と一緒に活動することで、さらに子供見守りの効果が高まります。

## 子供見守り活動

登下校の時間帯にあわせた行動

- 犬の散歩
- 買い物
- ウォーキング 等

### 「ながらパトロール」

民間事業者の車両による  
「動く防犯の眼」の取組（※）



※ 動く防犯の眼の取組とは、都内を走る事業者等の車に「動く防犯の眼（防犯ステッカー）」を貼り、犯罪発生現場や不審者を見かけた場合に率先して通報してもらうなどで、都民の安心感と地域の防犯力の向上を目指すものです。



お祭りやもちつき大会等の地域の大人と子供とが顔見知りになるイベント

プラス

- 防犯講話の実施
- 防犯パトロール隊の参加

### 「プラス防犯」

プラス

子供と一緒にを行う

小学校や中学校のPTA・おじの会による清掃活動やイベント

このように、様々な行動に子供見守りの意識を少し加えることで、効果的な取組とすることができます。大切なことは無理なく継続して行うことです。「ながらパトロール」や「プラス防犯」の取組を広げ、子供見守りの目が溢れるまちを目指しましょう。

## 大東京防犯ネットワークをご覧ください

東京都青少年・治安対策本部では、防犯ボランティアを応援するポータルサイト「大東京防犯ネットワーク」を運営しています。

防犯に関する都や区市町村による講習会の開催や補助金の情報、都内で活躍する防犯ボランティアの活動紹介など、有意義な情報を発信しています。

### 【大東京防犯ネットワーク】



担当職員のつぶやきが聞こえる  
ツイッターも配信しています。  
(@tokyo\_bouhan)  
ぜひ、フォローしてください。



<http://www.bouhan.metro.tokyo.jp/>

大東京防犯ネットワーク

検索

# 「大人も子供も和気あいあいの花壇作り」

～花が取り持つコミュニケーションの輪～

## 取組のいきさつ

花いっぱい運動を始めたのは、小学校への孫の送り迎えがきっかけです。毎日送り迎えをしながら、登下校する小中学生へ挨拶や声かけをする中で、子供を見守る活動の一つとして学校の内外に花を植えることを思いつき、それを通して子供たちとの交流を深めていこうと考えました。

そこで昨年、東京都の「地域の底力再生事業」の助成を得て活動を開始。「花は植えて終わり」ではなく、常日頃の手入れが欠かせません。毎日水やりをしながら、子供たちに声をかけ、見守りをします。互いに顔を知っていれば、子供に、あるいは子供からも声をかけやすくなります。誰もが挨拶しあい、コミュニケーションがとれるようになると、和やかで居心地のよいまちになります。



▲ 代表の鈴木俊郎さん



▲ 犬の散歩中の方もつい話しかけてしまいます



◀ 足立区の花、チューリップの球根は、区が無償提供



## 今回の活動内容

足立区立花畑中学校の花壇やプラントナーに花を植えました。地元のボランティアに生徒や先生が合流した30人以上の共同作業。校内の花壇にはパンジーやオキザリスで花文字を作り、みんなでワイワイガヤガヤしながら、花壇を造り上げました。

学校横の花壇にも、ビオラやチューリップの球根を植えました。植え付け作業が終わる頃には、大人も子供もすっかり打ち解けた雰囲気になりました。



▲ 校内の花壇で花文字づくり



▲ 植え付け後の花壇



◀ 学校横の花壇で植え付け作業

**ポイント** 花いっぱい運動を始めて2年。東京都の子供見守りボランティアリーダー育成講座修了後に始めた活動が発展し、地域で一緒に活動してくれる人たちやグループとのつながりも広がりました。「このごろ、まちの雰囲気がよくなったね。」と話してくれた人もいます。花の成長は、子供と大人の会話をつなぐ格好の題材となっています。

## 今後の展望

都内でも最大規模の花畑団地は建設から約50年が経ち、過疎化が進んでいます。「人が住まないとまちが荒廃していく」といわれますが、花が増え、まちが美しくなれば、ゴミのポイ捨てがためらわれるなどモラルの向上が期待でき、防犯にも役立ちます。

「花畑」という地名にふさわしい花いっぱい運動が、子供たちが安心して暮らせるまちづくりの契機になればと思います。子供たちが誇りを持てるまちにすること——「安全」「安心」で愛着もてる「花畑」にすること——が今後の目標です。



# 「こども110番の家」かけこみ体験

～知らないお宅に入るのは戸惑うけれど～

## 取組の背景

今回の取組は、子供たちが危険な目にあったとき、「こども110番の家」にどのように駆け込むかを実際に体験してもらうことで、いざというとき、迷わず駆け込めるようにと実施しました。

## 実際に体験

会場となった学園東町地域センターの集会室には、地域の子供達約30人が集まり、地元警察官による防犯講話や子供向けの防犯DVDの上映を行いました。その後、子供達は4つの班に分かれ出発。路上で不審者役の保護者等が声を掛けると、子供達は予め協力を依頼していた「こども110番の家」や商店に助けを求めました。

今回の駆け込み体験に協力してくれた家庭や商店も、子供の保護、聞き取り、警察への通報という一連の流れを体験しました。



▲ 代表の戸高綾子さん



▲ 学園東小学校児童が作った地域安全マップ



**ポイント** 駆け込み体験を行う上で、「こういうふうに応えよう」「こういうふうに連絡をしよう」と、自らマニュアルを作って準備してくれたお宅もあり、協力者の方々には子供の安全に対する意識を高めていただけました。今回の取組を通じて地域の中で顔見知りが増え、子供を見守るネットワークが構築されました。

## 取組の効果

子供はピンポンを押しながら、「なんて言おうかな」とはじめての一言が不安だったようです。やはり知らないお宅に入ることは戸惑いがあったようですが、協力してくれたお宅や商店が暖かく迎え入れてくれたため、子供達も安心して楽しく体験できました。知らない家に駆け込むことは難しいため、子供達には良い体験になったと思います。

また、地元の役所や警察署、自治会と協力して実施したことで、関係者は一層防犯意識を高めることができました。

コンビニエンスストアにかけこみ体験



▲ 学園東町には、たくさんの「こども110番の家」があります



▲ 手芸店の前で、参加者の記念撮影



▲ やさしい手芸店の皆さんに囲まれて

## 「こども110番の家」

「こども110番の家」とは、子供達が危険に遭遇したり、困りごとがあるとき、安心して立ち寄ることができる場所です。PTAや地域の方等が行うボランティア活動で、実施主体により様々な名称やステッカーがあります。



## 今後の展望

自治会内には2つの小学校があり、もう一つの小学校でもやりたいという声があるので、これから活動の輪を広げていきたいと思っています。



# 「落書き消しGによる落書き消し・お絵描き事業」

～まちの落書きを消して、公園やガード下に子供の絵を～

## 取組のいきさつ

柏木地区協議会では2010年から「子供たちを犯罪から守り、安心して通学できる」ようなまちづくりの活動を始めました。犯罪が起きやすい場所とはどんなところか、地区一帯をくまなく歩き、暗い場所、ゴミの放置、落書き、放置自転車など多項目にわたって調べ、写真を撮ってリストアップ。

わかりやすい「柏木防犯マップ」を作成して地域の人々にアピールしています。子供たちも実感できる明るいまちづくりを目指しています。



▲ 代表の竹内洋一さん



▲ 柏木防犯マップ

## 今回の活動内容（ガード下の落書き消し）

地区内の落書きは、個人宅や公共施設の塀、ガード下、公園などに350以上もありました。そこで「落書き消しG」を発注。まず東京都の指導のもとに地域のみなさんと試験的に落書き消し作業を開始。その後は個人宅の小さな落書きも含め2013年までに地域のほとんどの落書きを消しました。

今回、「柏木防犯マップ」で危険な場所とされた地域内2つのガード下の壁を白く塗り、そこに児童応募作品より選択した9作品を拡大シールにして貼り付けました。すると薄汚れて暗かったガード下が明るくなり、犯罪の危険抑止につながる実感が得られました。

ここがポイント！

落書きを消すだけではない！  
暗くて危険な場所が白いペンキと子供の絵で明るく！



▲ 暗いガード下

薄汚れた壁を白く塗りました



## 今回の活動内容（公園の壁にお絵描き）

落書きされやすい壁をカラフルに！

北新宿公園の壁にも以前から落書きがありました。ここではペンキを塗って消すだけではなく、再び落書きがされないよう知恵を絞り、地区内2つの小学校の児童から募集した絵を描くことにしました。

100近く集められた作品の中の17作品を素材として、柏木地区にある宝塚大学の学生たちに絵のデザイン及び絵のペイントをしてもらいました。完成当日は保護者や地域の人が見守る中、地域の子供たちが、最後の筆入れをしました。壁面づくりに参加した人は勿論、ここを通る人にも温かさを伝えています。

ここがポイント！

同じ地区の大学にも協力してもらうことで、子供見守りの輪が更に大きく広がる！



▲ 白い壁に

子供たちも一日画伯に！



▲ 完成した絵



元絵の募集ではたくさんの作品が集まりました



◀ 「落書き消しG」の活動



▲ 子供たちの描いた絵をシールに

## 今後の課題

柏木地区では住民の高齢化が進む中、働き盛りの年代は地域活動へほとんど参加できません。しかし、子供たちの安全を確保し、犯罪のないまちにするには住民の協力が必要です。地域に愛着をもってもらい、町内会や近所同士という小さな単位で活動に参加できる仕組みづくりが今後の課題です。

# 「高松地域会議」

～安心マップによる「笑顔あふれるまち」づくり～

## 取組のいきさつ

代表の斉藤美和子さんがPTA会長をしていた時、「防犯にもっと取り組みたい」という思いがあったことから、東京都の「子供見守りボランティアリーダー育成講座」を受講。今回、子供見守り活動プランとして、安心マップづくりによる地域の環境改善を企画しました。



▲ 代表の斉藤美和子さん

## 活動内容

### 地域の現状を把握するためのまち歩き

地域の点検や良い所の発見とともに、まちの理想像を探るため、掲示板や回覧板で参加者を募り、当日は子供を含む約40人が参加。「子供の安全は地域の人々が知り合うことから」と考え、知らない人同士でも知り合いになれる誕生日による班分けをして実施しました。

### まち歩きのポイント

防犯上の子供見守りの視点だけではなく、交通安全や防災の視点も加え、見通しの悪い道や落書き、消火栓の場所なども確認しました。

和気あいあい、  
まちをしっかりと  
見つめました



▲「安心マップ作り」  
いろいろな意見を出しながら

### 安心マップづくり

子供たちと一緒に、まち歩きで確認した場所の写真などを模造紙に貼ってマップづくりをしました。子供たちも折り紙を切って貼るなど、楽しそうに作業に参加しました。



## スタンプラリー

町内会の「餅つき大会・防災訓練」とコラボして、作成したマップを基に地区内の消火器や消火栓に置かれたスタンプを集めるスタンプラリーを開催しました。また、子供たちは「理想のまち」を紙に書き、クリスマスツリーを描いた紙に貼りつけました。

**ここがポイント!** スタンプを集めるとつきたてのお餅がもらえるという趣向で、参加した子供たちも大喜び!

### 高松地域会議

学校や町内会、区、警察、消防を交えた「高松地域会議」で、マップづくりを通じて浮かび上がった課題を共有し、今後の展望を話し合いました。

**ここがポイント!** 関係者間で問題意識を共有し、具体的なまちの改善に!

▲ 楽しみながら「安心マップ」完成!

防災訓練がスタンプラリーでもり上がりました!



▲ 地域の様々な立場の方が活発に意見交換しました

## 取組の効果

今回のイベントをきっかけとして地域に知り合いが増え、新しいコミュニケーションの輪が生まれました。地域の絆が強くなり、子供を見守る目も自然と増えました。

今回作成した「笑顔あふれる高三町会」ののぼりを旗印に



## 今後の展望

日々忙しい中でもメンバーの時間を融通し合うことが活動の推進力。自分たちだけでなく参加者も楽しむことができる活動を学校や町内会、区、警察、消防と連携して行い、「笑顔あふれるまち」の実現を目指します。

### 「NPO法人 ささえ手」

平成22年、地域住民が支え合い、楽しく元気で安心して暮らせる環境を作ろうとNPO法人を設立しました。子供見守りのほか、IT講習やサバイバルクッキング、学校を拠点とした農園活動を展開。いざという時のために、日ごろから防災・防犯を意識した活動を楽しく展開しています。

学校農園でみんな笑顔に!



## 「無料塾」

～子供の居場所をつくり、人としての成長を見守る～

### 取組のいきさつ

コード騎士団は、平成21年に世田谷区の「ひと・まち塾」修了生が中心となり、団塊の世代以上の人たちの居場所づくりを目的に結成。地域貢献を目的とした地域福祉マップづくりなどに取り組む中、中心メンバーの児玉さんが以前、個人的に小学生の受験勉強をみていたことをヒントに、より幅広い世代の交流を目指して無料塾を始めました。

### 活動内容

無料塾は、毎週金曜日の午後4時から7時まで行っています。通う学校の違いやクラブ活動などにより、子供たちが来られる日にもばらつきがありますが、柔軟に日程の変更や追加をしています。

子供たちに学校の授業内容を聞きながら、学校や町の塾とはひと味違う教え方をするよう工夫しています。

友達と一緒に勉強ができる「場」をつくり、わからない時には聞くことができる温かな居場所づくりを目指しています。



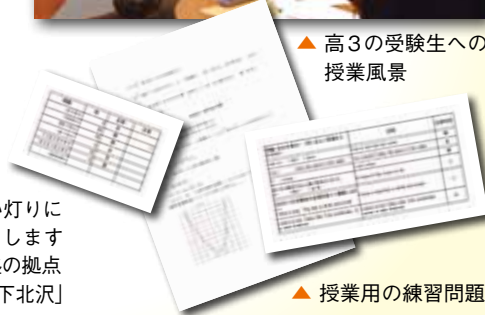
◀ 温かい灯りにほっとします無料塾の拠点「COS下北沢」



▲ 熱心に指導する児玉健太郎さん



▲ 高3の受験生への授業風景



▲ 授業用の練習問題

### 取組の効果

無料塾で学んだ高校生の一人は、「いろいろな教科を親身に教えてくれる。卒業したら活動を手伝いたい。」と話しています。

無料塾に参加する子供たちは、自主的に学校でのいじめ問題にも向き合うようになりました。気軽に話ができる大人や仲間がいることが、いじめ問題を考える上で大きな力になっています。

世代をこえた交流で、お互いを尊敬、尊重しあう気持ち、子供たちに育まれています。



◀ ビンゴ大会でみんな夢中！



▲ 歌舞伎鑑賞ツアーなどでは大人たち、同世代間の交流も！



▲ 地域福祉マップ



**ポイント** 団塊の世代以上の活動に子供対象の無料塾を加えたことで、世代的に幅広い活動となりました。例えば、歌舞伎鑑賞ツアーやクリスマスパーティーなどを企画し、子供との交流の場となっています。

### 今後の展望

子供たちがいつでも安心して勉強でき、また自由に遊ぶことができる居場所づくりが次のステップ。

例えば小学校低学年の子供が学童保育の後に立ち寄れるような居場所づくり。それには様々な課題がありますが、一つひとつクリアしていきたいと思います。

### 「コードナイト騎士団」

団塊世代が中心となり、地域のなんでも相談や講座をメインに多岐にわたる活動を実施。その一つとして無料塾を開講。拠点の「COS下北沢」は、地域の人々が気軽に立ち寄れる交流の場となっています。

ちょっと洒落た名前は、「地域コーディネーター」をふたひねりほどしたもの。活動に参加している方は、小学生から80歳代まで幅広い年代層にわたっています。



# 「朝の登校見守り」

～楽しい工夫で子供たちの心を掴む～

## 朝の登校見守り活動

代表的な子供見守り活動の一つに、朝の登校見守りがあります。朝の通学路に立ち、登校する小学生と挨拶を交わしながら見守ります。



こうした取組を継続して行うことは、子供たちの安全確保だけではなく、挨拶や会話などのコミュニケーションによる非行防止にも効果があると言われています。

しかし、ある日突然この活動を始めても、子供と打ち解けることは困難です。中には「不審者」として通報されてしまうケースもあります。

ここでは、「朝の登校見守り」を効果的に行う方法を紹介します。

## 活動の準備

活動を始める前に、以下のことを準備しましょう。

### 1 関係者に相談する

事前に、小学校や地元の町会・自治会、警察署等に相談して理解を得るようにしましょう。できれば、子供たちへの紹介や、活動への協力もお願いします。



### 2 目印を身につける

見守り活動をしていることが一目でわかる目印をつけましょう。蛍光色のベストや、腕章などが一般的です。団体で活動する場合には、揃いのユニフォームを着ると効果的です。これらの装備品については、地元の区市町村や警察署に貸与や補助金の制度がある場合があります。



## 子供へのアプローチ

初めのうちは子供たちへの挨拶も、なかなか上手くいかないと思います。このページでは、ユニークな方法で「朝の登校見守り」を続け、子供たちの心を掴んだ事例を紹介します。

## 中野区 「鈴木孝雄さんの取組」

活動エリア 中野区立西中野小学校の通学路

活動日 毎日（休みの日を除く）

活動歴 9年

### 「じゃんけんおじさん」「ヒゲのおじさん」

子供たちは「知らない人と口をきいちゃいけない。」と教えられているので、挨拶をしても返事をしてくれませんでした。そこで顔を覚えてもらうためにヒゲを生やしてみると、たちまち「知らない人」から「知ってるおじさん」に変身。次にグーを出してみました。「最初はグー、じゃんけんぽん」と。それから会話が弾むようになり、「おじさん、もう一回やってよ」と。これは子供が輪になるくらい反響がありました。今では誰もが知ってる「じゃんけんおじさん」「ヒゲのおじさん」で知られています。



## 国分寺市 「橋本豊明さんの取組」

活動エリア 国分寺市立第二小学校の通学路

活動日 毎日（休みの日を除く）

活動歴 14年

### 時計おじさん

子供たちは私のことを「時計おじさん」と呼んでいます。というのも朝の登校見守りで子供から「今何時ですか？」と聞かれたとき、「何時ですよ」と答える代わりに、低学年の児童に時計の見方を覚えてもらうために時計を見せたのです。時計を見せるおじさんということで子供たちに顔を覚えてもらい、親しくなりました。それからは、挨拶するときにパッと腕時計を見せています。

「時計おじさん」の愛称で、小学生はもちろん、中学生になった子供たちとも挨拶しています。



# 「子供見守りシンポジウム」開催！

～通学路における子供の安全確保のためにできること～

平成25年8月22日（木）

東京芸術劇場コンサートホールにて

平成25年8月22日、「通学路における子供の安全確保のためにできること」をテーマとしたシンポジウムを開催しました。6月に児童3人が小学校の正門付近で襲われ負傷した練馬区の児童切りつけ事件を契機に、通学路で子供を犯罪被害から守るため、地域に何ができるのか話し合われました。

防犯ボランティアの方々をはじめとした1000人を超える参加者は、「犯罪者に『見られている』と感じさせることで犯罪を未然に防ぐことができる」「地域ぐるみの取組として『見守りの目』を増やすことが重要である」という話に熱心に聞き入っていました。



主催者挨拶をする  
警視庁生活安全部長  
石田高久

## 基調講演「地域で守る子供の安全」・ミニ講演の概要



明治大学理工学部  
建築学科教授  
山本俊哉氏

基調講演では、「安全対策に絶対的なものはなく、いかに頻度とダメージを減らしていくかが大事」との説明が山本教授からあり、様々な機会を捉えた時間的・空間的な隙間を埋めるための「ながら防犯」の紹介がありました。またミニ講演では、警察・教育・行政・防犯ボランティアがそれぞれの立場から現状を取り巻く課題や今後の取組について講演し、情報共有や連携の必要性について問題提起されました。中でも、事件現場で小学生を守った廣戸勇氏が、「児童通学案内員は刃物を持った者に向かっていってはいけなさとされているながらも、現場には大人が自分だけだったため犯人と対峙せざるを得なかった。自分や保護者の力にも限界がある。地域が一体となって児童・生徒の登下校を見守ることが大切」と訴えました。



警視庁生活安全総務課長  
山口寛峰



教育庁地域教育支援部長  
秀嶋善雄



青少年・治安対策本部  
治安対策担当部長  
五十嵐誠



児童通学案内員（練馬区）  
廣戸勇氏

## パネルディスカッションの概要

後半は、警察・行政・教育・PTA・地域それぞれの立場のパネリストが登壇し、山本教授をコーディネーターとしたパネルディスカッションが行われました。

- 子供見守り活動を面的に広げていくための取組として、
  - 連携して活動するためには、まずお互いの役割分担、協力関係を確認することが大切。（東京都青少年・治安対策本部長）
  - 行政と地域とが一緒に地域の安全・安心の情報を作り、共有していくことが重要（豊島区長）
  - 練馬区には区・学校・住民で組織する防災活動拠点運営委員会がある。防犯についても連携して活動する仕組みを作るべき。（練馬区小学校PTA連合協議会会長）
  - 学校と地域とが信頼関係をもち、情報を共有することが大切。例えば小学校の下校時刻を地域の人を知ることで、見守りの意識をもってもらえる。（東京都教育庁地域教育支援部長）
- などの意見が交わされ、「子供見守り活動は、地域社会において単独で取り組まれるべきではない」との視点から、交通安全や防災の問題も含めた連携の重要性が指摘されました。

また、活動継続の重要性や隙間を作らないための方策も話し合われ、12年間登下校の見守りを続けている明大前ピースメーカーズの活動（詳細はp22-p23）や、豊島区におけるセーフコミュニティの取組（詳細はp20-p21）などが紹介されました。

シンポジウムの詳細は、HP（大東京防犯ネットワーク）で掲載しています。  
[http://www.bouhan.metro.tokyo.jp/90\\_archive/topic/report\\_2013/09/p0905.html](http://www.bouhan.metro.tokyo.jp/90_archive/topic/report_2013/09/p0905.html)



青少年・治安対策本部長  
河合潔



豊島区長  
高野之夫氏



練馬区小学校  
PTA連合協議会会長  
横澤由明氏



## ボランティアの方々に期待されること

警察や行政では、子供の安全のため様々な取組を行っています。しかし、警察官が常時すべての通学路をパトロールすることは困難であり、街中に防犯カメラを設置したとしても、それだけで子供を犯罪被害から守ることはできません。住民や地域における子供見守りの目を増やし、時間的・空間的な隙間をなくすることが効果的です。「できる人が・できる時に・できる範囲」で、子供の安全を気にかけて地域に目を向けることが大切。無理なく一人でも多くの人に行動していただき、相互に連携することが求められています。



# 「セーフコミュニティ」 ～豊島区の安全・安心への取組～



## セーフコミュニティの国際認証取得

セーフコミュニティとは、「WHO地域の安全向上のための協働センター」が推進する、安全・安心まちづくりの国際認証制度です。「けがや事故等は、偶然の結果ではなく、原因を分析することで予防できる」との理念に基づき、安全・安心と健康の質を高めていく活動です。

2012年11月豊島区は、世界で296番目、日本で5番目、東京都では初めて、この国際認証を取得しました。また同時に、区立朋有小学校が、学校単位の認証制度である「インターナショナルセーフスクール」の認証を取得しました。

## 二つの心臓で活動を継続

豊島区は、二つの心臓を動かすことでセーフコミュニティ活動を継続しています。

10項目の重点課題に対応する、第1の心臓「対策委員会」では、データ分析に基づく現状と課題の分析を行い、予防策を生み出します。

第2の心臓「地域区民ひろば」は、セーフコミュニティの拠点として、各重点課題に対する情報提供を行い、学習や相談の機会を提供することで、幅広い区民にセーフコミュニティ活動を伝える役割を果たします。高齢者・子どものけが・事故予防のプログラムや、コミュニティソーシャルワーカーによる相談事業など、平成25年度には231のプログラムが延べ1,617回にわたって実施される見込みです。

### 第1の心臓 重点課題に対応する対策委員会

豊島区セーフコミュニティ推進協議会

|             |        |        |          |        |                |         |         |                   |           |
|-------------|--------|--------|----------|--------|----------------|---------|---------|-------------------|-----------|
| 子どものけが・事故予防 | 高齢者の安全 | 障害者の安全 | 自転車利用の安全 | 繁華街の安全 | 学校の安全(セーフスクール) | 地震災害の防止 | 児童虐待の防止 | ドメスティック・バイオレンスの防止 | 自殺・うつ病の予防 |
|-------------|--------|--------|----------|--------|----------------|---------|---------|-------------------|-----------|

### 第2の心臓 小学校区単位の地域区民ひろば



- 運営は、区民主体の運営協議会が担っています。
- 世代間交流とコミュニティの拠点でもあります。
- 全ての小学校区に設置する計画です。

## セーフコミュニティにおける「子供の見守り」に対する取組

### ▶すがもっ子(巣鴨小学校)、駒込小学校、朝日小学校 各パトロール隊による下校時見守り活動

各小学校の学区にある町会が手を組み、地域住民、学校、PTA、警察署、防犯協会と豊島区が一体となり、毎月、児童の集団下校時間帯に合わせて、地域全体で子供たちの安全を見守っています。



▲すがもっ子安全安心パトロール隊による見守り

### ▶防犯見守り放送「げこーる」

小学生の下校時に、児童の声で地域の皆さんに防犯の見守りを呼びかける放送を実施しています。

### ▶スクールガード養成講習会

PTAを対象に、パトロールや見守り活動における注意点、犯罪被害の防止方法などについて講習を行っています。平成25年度は64名の方に参加いただきました。



▲警察から、防犯のポイントについて実演を交えた指導

### ▶スクールサポーター(警察官OB)と連携した 学区内の子供の見守り活動

PTAの方々が防犯のポイント等を学んだうえで、実際に学区内を回り、危険箇所などのアドバイスを受け、地域の安全向上に役立てています。(平成25年度は小学校8校で実施)

## こども110番の家マップ (安全・安心地図情報システム)

<http://www.sonicweb-as.jp/toshima>

豊島区では、セーフコミュニティ活動の一環として、安全・安心情報を地図を使ってわかりやすく提供しています。

このほか、安全・安心に関する各種の情報も公開しています。

- AED設置場所
- 交通事故発生地点
- 医療機関
- 救援センター
- 消防水利
- 震災関係情報



# 「工夫をこらし、大きな成果を上げる活動を」

～地域の犯罪率が激減、安全なまちに～

模範例

京王線・明大前の駅前に、日本初の民間交番「明大前ピースメーカーズBOX」があります。この地域は、平成12年頃、空き巣やひったくりなどの犯罪が増え、警察署管内でワースト1になったほどでした。翌年、地域を良くしようと立ち上がった商店街振興組合が、交番がなかった駅前に自分たちの「交番」を作り、そこを拠点にまちの安全を守る活動を始めました。工夫をこらした活動の成果は大きく、犯罪が激減。この活動はメディアを通じて広く知られるようになりました。

結成から12年以上。継続した活動で大きな成果を上げている明大前ピースメーカーズ代表の本杉香さんに活動や継続のヒントを伺いました。



▲ 明大前ピースメーカーズBOX

## 主な活動内容

- 通学路の4か所で子供たちへあいさつをしながら見守る
- 昼夜を問わない地域内のパトロール。徒歩や青色防犯パトロールカーによる見回り
- 活動拠点の「明大前ピースメーカーズBOX」で道案内や困りごとの相談
- 防犯団体へのアドバイスや講演等



▲ 代表の本杉香さん



◀ 通学路での見守り活動

## 活動・継続のヒント

ヒント1

### 学校や地域と連携した通学路の見守り

- 結成当初、地域で小学生への痴漢被害が頻発していたので、学校からの事件発生との連絡により隊員が現場に駆けつける仕組みを作りました。これにより被害が激減し、学校からの信頼を得ました。
- 小学校の入学式では、新入生と保護者への隊員紹介の場を設けてもらい、時間に余裕のある祖父母の方には送り迎えをお願いしています。
- 長い通学路は見守りの目が届かず隙間だらけ。そこで児童のお母さん方に「朝、子供を玄関の外まで出て見送った後、5分間は見守りを続けて下さい。」とお願いしました。「朝の5分はもの凄く忙しい」との反対がありましたが、「あと5分早起きして」とお願いし、納得していただきました。これにより登校時の見守りの目が増えました。



▲ 子供たちから送られた感謝の寄せ書き

ヒント2

### 継続的なパトロールのために

隊員は「週1回以上出勤」「週3回以上は出勤しない」というルールの下でパトロールをしています。あまり頻繁だと息切れし、間が空きすぎると意識が薄れるからです。出勤は決して強制しませんが、「自分が出ないと仲間迷惑をかける」という雰囲気は作られています。これが継続の秘訣になっています。

夜のパトロール ▶



ヒント3

### 活動の活性化に向けた体制づくり

#### 組織化して会則を作る

防犯（子供見守り）活動は、個人よりも組織化された団体の方が、警察からのサポートや学校等からの協力を得やすくなります。活動の目的や内容を書いた会則を作成し、組織の形を明確にすることが大切です。

#### 一目で分かる格好を

揃いの目立つユニフォームを着て活動をアピールすると、犯罪の抑止効果が高められます。また活動が地域に定着すれば、子供たちに「自分を守ってくれる人たち」との理解が深まります。

#### 活動拠点を作る

隊員が気軽に寄ることができる場所があれば、報告や隊員同士の交流ができ、モチベーションが高まります。地域の人だけでなく、メンバーにとっても「明大前ピースメーカーズBOX」は重要な拠点となっています。



▲ BOX内

北海道からとりよせた熊除けの鈴でパトロール効果UP!!



大人が変われば子どもも変わる



編集  
発行

東京都青少年・治安対策本部 総合対策部 安全・安心まちづくり課  
〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号 ☎03-5388-2282

登録番号 (25) 41